

精を避けることができる」の増加割合は有意傾向($p < 0.1$)であった。

⑤性行動 性行動では、プレテストと比べフォローアップ・テストで4項目すべてにおいてリスク行動が有意に減少した。有意差は、「口内射精をした」($p < 0.001$)、「口内射精をされた」($p < 0.001$)、「アナルにペニスを入れるときコンドームを使わなかった」($p < 0.005$)、「アナルにペニスを入れられるときコンドームを使わなかった」($p < 0.01$)であった。

表 13 プログラムの影響評価(LIFEGUARD)

領域	項目	プレ(n=227)		ポスト(n=209)		フォロー(n=128)	
		n	平均	n	平均	n	平均
感染体液知識	血液	227	0.94	209	0.97	128	1.00**
	汗	227	1.00	209	0.99	128	1.00
	膣分泌液	227	0.77	209	0.94***	128	0.94***
	だ液	227	0.87	209	0.98***	128	0.96**
	精液	227	0.94	209	0.97	128	0.99*
	涙	227	0.99	209	0.99	128	1.00
感染身体部位知識	肛門	227	0.99	209	0.97	128	0.97
	へそ	227	0.99	209	0.99	128	1.00
	尿道	227	0.70	209	0.90***	128	0.94***
	口の中	227	0.76	209	0.81	128	0.79
	亀頭	227	0.66	209	0.78*	128	0.78*
感染行為知識	ディープキス	227	0.89	209	0.97***	128	0.97***
	コンドームをつけずに口内射精される	227	0.89	209	0.93	128	0.96*
	コンドームをつけずにペニスをなめる	227	0.63	209	0.70	128	0.66
	コンドームをつけずにペニスを入れられる	227	0.63	209	0.82***	128	0.90***
	コンドームをつけずにアナルに射精される	227	0.97	209	0.97	128	0.98
	コンドームをつけずにアナルにペニスを入れる	227	0.80	209	0.85	128	0.87
イメージ	コンドームを使ったセックスはHな感じがする	201	2.43	200	3.01***	125	2.71 [†]
	セイファーセックスは気持ちよい	202	2.98	200	3.39***	125	3.31*
	セイファーセックスはやりかたが決っていない	197	3.41	198	4.14***	125	4.07***
スキル	フェラチオでHIV感染を避ける方法を知っている	203	1.34	199	2.10***	126	2.06***
	相手のコンドームなしのアナルセックスを止める方法を知っている	201	1.62	200	2.18***	126	2.15***
自己効力感	相手の口内射精を避けることができる	202	2.35	199	2.56**	126	2.52 [†]
	アナルセックスの時にコンドームを使うことができる	202	2.48	199	2.68**	126	2.70**
リスク行動	アナルにペニスを入れるときコンドームを使わなかった	200	1.51			80	1.25*
	アナルにペニスを入れられるときコンドームを使わなかった	200	1.58			79	1.28**
	口内射精をした	200	2.01			80	1.46***
	口内射精をされた	201	1.75			80	1.35***

*** $p < 0.001$, ** $p < 0.01$, * $p < 0.05$, [†] $p < 0.10$

- 1) 「感染体液・感染身体部位・感染行為についての知識」は、正答=1、誤答=0とした。
- 2) 「リスク行動」「スキル」「自己効力感」は4点式リカートスケールを用いた。
- 3) 「予防イメージ」は6点式リカートスケールを用いた。

3. コミュニティ・レベル

ここでは、F G I参加者による介入資材（情報パンフレット『Brush Up! Safer Sex』およびLIFEGUARD 広告用フライヤー／メディア広告）の評価を検討した。なお、対象者の発言は、文意がわかりやすいように必要に応じて言葉を補うとともに、インタビューの実施場所および年代を記した。

【フライヤー／メディア広告について】

(1) 全体のイメージ

① 内容／デザイン

フライヤーにLIFEGUARDの広報とH I V啓発の側面を持たせたことによって、何を訴えたいのかわからなくなっているとの指摘があった。また、三つ折りというフライヤーの形式に対して、表紙部分だけを見ても、何のフライヤーかわかるようにするべきとの意見があった。

フライヤーの表紙に書かれたライフガード、ワークショップ、safer sex brothersという名称・文字から啓発イベントを想像できない、各回ごとに実施回数を入れたほうがイベントとしての信頼性を高める、イベントの説明を読むといつもセックスをしている人が参加するイベントだと思った等の意見があった。

- パンフレットと比べるとフライヤーは情報が多く、何を言いたいかわからない。LIFEGUARDだけにしぼってもよかったのではないか。(松山 20代後半)
- マンガのメッセージはわかりやすいが、マンガとLIFEGUARDの関係が不明瞭。(東京 30代前半)
- 三つ折りにしたらなんのフライヤーかわからない。セーフセックスのイベントと思えなかった。(札幌 20代後半)
- LIFEGUARDという名前から啓発が思い浮かばない、英語だから頭に入ってこない。(ゲイ・ボルノ) ビデオのタイトルみたいで、目的とイメージが合致しない。(松山 20代後半)
- フライヤーに1, 2, 3と通し番号を書いてほしかった。参加無料を大きくすべき。あと、ワークショップって何って聞かれた、誰が働いているのって。LIFEGUARDの意味も聞かれた。(札幌 20代前半)
- デザインよし。イベントが何回目か書いたほうがよい、回数はインパクトがあるので。(札幌 30代前半)
- 表紙のsafer sex brothersの「brothers」に違和感を持った。(札幌 20代後半)
- 説明を読んで、いつもセックスしている人のためのイベントのイメージを持った。(札幌 30代後半)

② 配色

フライヤーは赤（前半用）、緑（後半用）を用いた2種類を作成したが、その中では赤がバーなどのやや暗いところでも目につくとの理由で評価が高かった。

- 赤だと暗いところでも手にとりやすい。(東京 30代前半)
- 赤と比べると緑は地味だと思う。(札幌 20代後半)

(2) メディア広告について

以下ではゲイ雑誌広告およびLIFEGUARD広報用として作成された赤・緑のフライヤーに掲載し

た広告とゲイマガジンにのみ掲載したオレンジの広告に対するそれぞれの意見をまとめた。

①イラスト

パンフレットで用いたイラストおよびマンガについては、絵がかawaii、セックスの描写があるのにいやらしくなくてよい、ゲイ雑誌で見たことがあるのでよいという意見が大勢を占めたが、他方で性的に惹かれないイラストであるとの指摘があった。

●お客さん受けはよかった。どろどろしてない。絵がかawaii。ちんこが書いてあるのに、ちんこっぽくない。絵がかawaiiから受けやすい。(札幌 30代前半)

●見たことがあるイラストなので、いい(4人賛同)。くわしく読まないでマンガをさがしてしまった。(東京 20代後半)

●イラストの男が好みじゃない。(東京 20代後半)

②前半・フライヤー／9月のコミック企画広告(赤)「オーラル・セックスでのリスク軽減」

対処テクニックの内容に関しては、多くの人が知っておく必要のあるテクニックであるとの意見があった一方で、基本的に「ウケ」の立場から啓発が組み立てられており、「タチ」教育の視点も含める必要があるとの指摘があった。ハッテン場という場面設定をしたことに関しては、オーラルセックスで口内射精を避けるための対処テクニックを提案するうえで、ハッテン場に限定する必要を感じないとの意見が出された。また、松山ではマンション等利用したハッテン場がないことから、ハッテン場という設定自体にリアリティを感じないという意見が示され、東京でもハッテン場という設定をフライヤーで見たら自分には関係ないと思ったかもしれないという意見があった。

●赤、緑のフライヤーとも、基本的な内容だと思う。(札幌 30代前半)

●イベント、マンガともウケがメイン。タチの視点がない。ウケのほう言いにくいのはわかるけど。(札幌 20代前半)

●タチ教育も必要だと思う。(札幌 20代後半)

●ハッテン場でなくてもこういうことはある。あえてハッテン場と断る必要はない。(札幌 30代前半)

●デビューしたての子は、ハッテン場を知らないし、松山にこういうハッテン場はない。ホテルや彼氏の家という設定でもよいのでは。(松山 30代前半)

③後半・フライヤー／10月のコミック企画広告(緑)「複数プレーでの意思表示スキル」

ハッテン場における複数プレーの際のリスク回避という設定に対しては、初心者向きでない、リアリティを感じない、現実の困難さと比べるとテクニックに現実味がないとの指摘があった一方で、ハッテン場での複数プレーという設定にリアリティを感じるという意見があった。また、マンガにおいてハッテン場が強調されると、ハッテン場に行かない人にとってはLIFEGUARDへの参加動機を低下させるとの指摘があった。

●緑のフライヤーのマンガを見て、こんなに人がいるのといわれた。デビューしたての子には向かないと思う。(松山 30代前半)

●赤は2人だけだから松山になじむが、数が多いのは東京的だと感じる。(松山 30代後半)

●複数プレーはこれまで考えたことがない。最初、家へこんなに人を呼ぶのかと思った。(松山 20代前半)

●緑の内容はレベルが高い。赤、緑という順番ならいいけど、緑を最初に見る人もいるのでどうかなと思う。(松山 30代前半)

●札幌のハッテン場でも複数プレーはあるので、この設定はピンとくる。(札幌 20代後半)

●「途中で抜ける」って書いてあるけど、複数でやってて抜けられないから難しい。(東京 30代前半)

●マンガを見てたらイベントに行かなかったかも。ハッテン場に行かないから自分には関係ないと思った。(東京 20代後半)

④11月コミック企画広告(オレンジ)「相手の魅力への弱さへの対処」

出会い系サイトで知り合い、相手を家に連れてきてセックスをするという設定に対しては、リアリティを感じるという意見と感じないという意見が出された。また、内容に関しては複雑すぎて理解できなかった、という意見が多く見られた。

- 内容が理解できなかった。(松山 30代前半)
- 意味がよくわからなかった。積極的にセーフターセックスをすればハッピーになるというのはわかるが、ちょっと伝わらない。(東京 30代前半)
- こういう出会い方にはリアリティを感じる。(東京 30代前半)
- いきなり家に連れてくるというのにはびっくりした。(東京 20代後半)

⑤その他

何回かにわけてマンガを使った形式で啓発を行うのであればストーリー性を持たせてはどうか、彼氏とはじめてセックスをするという設定をつくったらどうかという提案があった。

- 4コマもいいが、ストーリー性もいい。「続く」という形式にするとか。(東京 30代前半)
- ここまで出すんだったら、彼氏とはじめてやるというパターンも出したら？(東京 30代後半)

【情報パンフレット(『Brush Up! Safer Sex』)について】

(1)全体のイメージについて

①デザイン

全体的に、色分けされ、マンガが用いられていることにより、読みやすいという評価が大勢を占めた一方で、裏面に対しては文字が多くイラストがないため読みにくいという意見が多かった。また、表紙に掲げられたパンフレットのタイトルである「Brush Up」の意味がわからないとの指摘があった。

- 情報量が多く、色分けされていて、ぱっと見やすい。伝わりやすい。マンガもみやすい。表は色の使い分けができていてよい。(松山 20代後半)
- お客さん受けはよかった。どろどろしてない。(札幌 30代前半)
- 裏の写真のあるページは文章が多いのでみないかな。裏にもイラストがあるとよかった。(松山 20代後半)
- 裏は、字が多くて疲れる。(東京 20代後半)
- 「Brush Up」の意味がわからない。英語を使わないほうがよいのでは。(東京 30代前半)

②メッセージ

エイズへの関心を高めるためおよび、エイズ＝東京／大阪の問題とする認識を変えるために、HIV感染の怖さを伝える内容を取り入れたほうがよいという提案があった。また、恐怖を持たせることに距離をとりつつ、感染した場合にどのような状況に直面するかについての事実を伝えるほうがよいとする意見があった。エイズだけでなく、他のSTD感染の可能性を内容に含めることで、エイズを無関係であると考える人に訴えかけてはどうかという提案がなされた。

- 軽い印象。HIVの怖さが伝わらない。感染者の体験談やヤリ部屋での怖い体験談などを取り入れたらどうか。(札幌 30代前半)

- エイズへの興味を持たせることができるなら、危機感をもたせたほうがよい。(松山 30代前半)
- 東京、大阪だと身近にいるかもしれないが、松山では身近に思っていない人が多い。(松山 30代後半)
- 医療費が月にいくらかかるかとか、(H I Vに) かかったらどうなるかの情報は載せられないか。(松山 20代後半)
- H I Vにはかからないと思っている人が多いから、他のSTDも含めてはどうか。コンドームなしでフェラチオしたらうつる病気があるという情報があると、浸透しやすい。(札幌 20代前半)

③対象

パンフレットの対象に関して、デザイン／イメージの観点から20～30代向けになっているとの意見があったが、40代を対象に含めるための提案がなされた。内容に対し初級者向けであるため、中級・上級者向けのパンフレットが必要ではないかとの指摘がなされた。

- 若い子のイメージ。(札幌 20代前半)
- 絵が、若い子と30～40代のセックスだったら対象が広がるかも。(札幌 30代前半)
- 店的には次のステップがあるとありがたい。(札幌 20代後半)
- 初心者向けの内容。3つくらい(初級、中級、上級)あると渡しやすい。この内容は、飲み屋やハッテン場に行く人は当然知っているもの。一步突っ込んだ応用編が欲しい。たとえば、ラッシュを使ったときの感染率は高くなるか？フィストファックするとどうなるか、とか。(札幌 30代前半)

(2) 予防情報の内容について

行政の発行物と異なり、男性間の性行為のバリエーションごとにリスクの有無が明確に示されていることに対して、わかりやすくてよいという意見の一方で、有無の2分法ではなくどの程度のリスクがあるか記したほうがよいという意見があった。また、「コンドームは摩擦に弱いので、財布やズボンの中にそのままのは禁物」(札幌版)との記述に対し、コンドーム携帯の代案を示してほしいとの声があった。説明の文章が小さいので、字を大きくしわかりやすく説明してほしいとの提案があった。

- リスクのある／なし、がはっきりしてるのがよい。ストレート向けのパンフは、ペニスをなめる／なめられるのリスクは書いてない。精液を飲む・飲まないのリスクが書いてあるのもありがたい。自分がH I V感染の可能性があるとき、いろいろ調べたが、公の発行物ではほとんどこういうのは載ってなかった。先走りのリスクもストレート向けのパンフでは、でてこない。(東京 20代後半)
- (感染経路で)「無」といっても、100%安全ではない。何%くらい危険かのほうがいいのかも。安全だと思って突っ走ることになる。(松山 20代後半)
- コンドームを持ち歩くと、摩擦に弱いとあるけど、どうしたらよいかの代替案がない。どうしたらいいかも書いてほしい。(札幌 20代後半)
- イラストと文章の間に落差がある。危機感のない若い子は、字が細かすぎて読まないのでは。図などを使って説明したらどうか。(東京 20代後半)

(3) マンガについて

マンガは、パンフレットと同じイラストレーターに依頼したため、かわいい、性的に惹かれるなど評価が高かった。

出会ってすぐに家に連れてきてアナルセックスをするという設定に対してはリアリティを感じるという意見があったが、性行為としてアナルセックスに焦点が当てられた点に対してはアナルセックスをしない／経験のない人に対して訴えかけが弱いとの指摘があった。

- サイトで知り合っただけその日のうちにHというシチュエーションはよくある。(松山 30代後半)
- この内容だと、おれはバックしないからで終わってしまう人もいる。アナルの経験ない人向けの要素ももりこんだら。(東京 30代前半)
- アナルをしない人が一定層いるから、フェラチオのマンガをいれたらどうか。(東京 30代前半)

(4)ヌード写真について

きれいでよいという意見の一方で、インパクトが弱いという指摘があった。また、違うタイプのモデルを使ってほしいという意見があった。

- このヌードいいですね。(松山 20代前半)
- 写真はきれいだが、インパクトが弱い。だけど、手に取りやすい。(松山 20代後半)
- もっとマッチョがいい。(東京 20代後半)

(5)「エッチのセイファードチェック」について

自分の性行動を考えるきっかけになったとの意見があった一方で、セイファードの計算がしにくいとの指摘がなされた。

- チェックしたら、リスクierだったので、自分のセックスを真剣に考えた。(松山 20代前半)
- 項目によってポイントが違うので計算しにくい。(東京 30代前半)
- せめてポイントの近いものをまとめて並べてほしい。(東京 30代前半)

(6)検査情報について

HIV検査のできる施設の電話番号、予約の有無、地図が掲載されたことに関して便利であるとの意見が出された。また、「心配なセックスのあった日から3ヶ月」という箇所を強調してほしい、予約から告知までの検査の流れを示してほしい、携帯しやすいように検査情報の部分に切り取り線を入れてほしいとの提案がなされた。

- 行政についての情報がよかった。いちいち電話番号とか調べないで済む。(札幌 20代後半)
- 値段、予約の必要が書いてあるのでよかった。(松山 20代後半)
- 心配なセックスから3ヶ月というのは、もっと目立つように赤字でしてほしい。(松山 20代前半)
- 検査がどういう流れで進むかわかりやすく示してもらえると助かる。(東京 20代後半)
- これから検査を受けようという人向けに、切り取り線があるとよかった。(札幌 20代前半)

(7)地域版について

表紙に「SAPPORO」「MATSUYAMA」と入れ、地域ごとのリスク・アセスメント調査の結果を反映した札幌版、松山版、横浜版を作成・配布したことに関しては、地域名が入っていると身近になる、もっと地域版であることを強調してほしい、エイズ=東京の問題と捉えられないためにも必要という意見が出された。

- 「このリーフレットは松山のゲイが……」があることで、身近に感じられた。同じ人ががんばっていると思える。(松山 20代後半)
- 行政ではなく、同じゲイが作っているので信憑性がある。(松山 20代後半)
- もっと、表紙のMATSUYAMAという文字を大きくしてもよいと思う。(松山 30代前半)
- 表紙のSAPPOROという字をもっと強調したら？ これでは、気づかない。札幌のアンケートをもとにしたというのも強調してくれたほうがよかった。(札幌 30代前半)
- エイズは東京の問題と思われているので、札幌のアンケートの結果が使われていることが強調されると自分た

ちにも関係あると思える。(札幌 20代後半)

(8)その他

家に持ち帰りにくい理由として、このサイズ(A4-三つ折り)では大きすぎて持ち帰りにくいという意見とともに、友人がいつ来るかわからない、実家に住んでいるので持ち帰れないという意見が寄せられた。フライヤーについても同様の理由で持ち帰ることが難しいという指摘があった。

●持って帰る人はいない。見るだけ。大きい。半分くらいがちょうどよい。フライヤーも半分くらいが多い。(札幌 30代前半)

●いつ友達が来るかわからないので、手許においてない。(東京 20代後半)

●実家に住んでいるので、バーで目を通すだけで、持ち帰れなかった。(松山 20代前半)

D. 考察

1. 個人レベルについて

(1)STD情報ラインについて

STD情報ラインの目的は、「いつでもどこでも無料で同性間におけるHIV/STD情報にアクセスできる環境」をつくることにある(H12年度報告書)。情報ラインの実施記録の集計から、主な利用者(相談者)は関東・近畿に住む20~34歳の男性同性愛者であることが明らかになった。これは、対象層からの利用を示すものであるが、他方で関東・近畿以外の他地域および他の年齢層からのアクセスを増やすための取り組みが必要とされているといえる。相談実施日である月曜と金曜で相談割合においては大差がなく、時間帯も12:00~14:00と20:00~24:00でも利用割合に大きな差は見られなかった。しかし、STD情報ページ利用者のアンケート結果によれば、電話をかけやすい曜日で土曜、日曜、かけやすい時間帯では21:00~24:00という結果が示された。これらの結果を踏まえつつ、より相談者が利用しやすい環境整備を進めていく必要がある。

情報源(STD情報ラインを知った媒体)では、ゲイ雑誌に加え、ゲイ団体のパンフレットが高い割合であった。このことは、情報パンフレットを読み、情報ラインに電話をかけてきたことを意味している。情報パンフレットを読み、さらなる疑問点を解消するために情報ラインが利用されていることは、複合的なアプローチの有効性を示している。

相談内容では、行為においては男性間のオーラルセックス、アナルセックス、症状においてはペニス、アナルが多数を占め、治療・検査では病院の選び方が高い割合であった。

また、相談疾病ではHIV、梅毒、尖圭コンジローマが上位を占めた。これらは、男性間のオーラル/アナル・セックスでペニスやアナルに発症した場合、治療・相談できる機関が少ないことを示している。さらに情報ラインが男性間の性行為についてもオープンに相談できる機関としての重要性を示すものであるとともに、治療の行える医療機関を紹介できる体制を構築していくことの必要性を示唆している。

(2)STD情報ページ

STD情報ページの目的は、STD情報ラインで質問の多い項目を蓄積し、それに対応した男性同性間のHIV/STDに関する専門情報を相談者に提供することにある(H13年度報告書)。情報ページのアンケート集計から、相談者は関東・近畿・中部に住む10~30代の男性同性愛・両性愛者であることが明らかになった。この層は、情報ページの対象層に含まれるものであるが、

他方でこれ以外の他地域および他の年齢層からのアクセスを増やすための取り組みが必要とされているといえる。

ページを開いた理由としてSTDの症状および予防方法を知りたいが挙げられており、知りたかった疾病としてはHIV、梅毒、B型肝炎が上位を占めた。ホームページの使いやすさでは9割が（とても）使いやすいと回答し、STDの知識が増えたかとの問いには（とても）増えたが8割以上であった。ページを開いたときの状況では、（まったく）焦っていなかったが8割で、ゲイ向けの情報であることについては（とても）役立ったが9割を上回った。さらに、ホームページを開いた目的の達成度では、達成したが8割以上であった。以上の結果は、直接STDについての心配が昂じてページを開くのではなく、男性同性間のSTDの症状や予防方法について日常的に情報を得ることを目的として、情報ページが活用されていることを示すものであろう。

2. 小グループ・レベル(LIFEGUARD)について

(1) 形態評価について

プログラムで扱った情報量に対しては「ちょうどよい」と答えた参加者が8割、情報の質については「知っているものと知らないものがあつた」が7割で、プログラム内で「役立つリスク回避のテクニックがあつた」と答えたものは5～6割であった。また「他の参加者の工夫や経験から参考になることがあつた」は9割を超えた。以上から、プログラムにおいて扱われた情報量は適切であり、また内容の質、とりわけリスク回避のテクニック（＝スキル）については、参加者にとって参考になるものであつたと考えることができる。また「イベントで取り上げられたエイズ的话题を友だちに知らせたい」と答えたものは8割を上回ったことから、LIFEGUARDへの参加者が今後コミュニティ内での情報伝達のコア層になることも期待できる。

(2) 影響評価について

① 知識について

体液の知識では、当初より正答率の高かつたものを除き、正答率の低かつたものはいずれも有意に正答率が上昇した。身体部位では、正答率の高かつたものを除き、正答率の低かつた項目では「口の中」を除き正答率が上昇した。行為では、「コンドームを使わずにアナルに射精される」行為が感染可能性がある点はほとんどの参加者に伝わっていたが、それ以外の行為についてはそれほど正答率が高くなく、正確な知識を伝える必要性のあることが明らかになった。介入の結果として、「ディープ・キス」「口内射精」「ペニスをなめられる」では効果が認められたが、「コンドームなしでペニスをなめる」では正答率に大きな変化は見られなかつた。

② イメージについて

介入の結果、セイファーセックスおよびコンドーム・イメージの向上が達成された。

③ スキルについて

介入の結果、オーラル／アナル・セックスにおけるリスク回避のスキルの認知向上が達成された。

④ 自己効力感について

介入の結果、口内射精の回避およびアナルセックス時のコンドーム使用についての自己効力感が上昇した。

⑤ リスク行動について

以上の結果を踏まえ、アナルセックス時のコンドーム未使用および口内射精の頻度が有意に減少した。

⑥まとめ

オーラルセックスに関連する身体部位および行為についての知識において課題が残ったものの、全般的に知識およびイメージ、スキル認知、自己効力感の上昇によって、リスク行動の減少を達成することができた。以上から、小グループ・レベルの介入プログラムである LIFEGUARD において啓発効果が確認されたといえる。

3. コミュニティ・レベルについて

(1) フライヤー／メディア広告について

全体のコンセプトに対しては、LIFEGUARD の広報および HIV 啓発の両側面を持っていたため、結果的に趣旨が不明確になった、三つ折りにしても何のフライヤーかわかるようにデザインすることの必要性が指摘された。マンガを通じたスキルの提供に関しては、基本的に必要な情報であるとの評価があった一方で、ハッテン場という場面設定をしたことに対しては、地域により身近に感じられないとの意見や、ハッテン場に行かない人から自分に関係ないと思ってしまうとの意見が出された。

(2) 情報パンフレットについて

全体的なデザインは、カラー刷りおよびマンガを用いたことにより読みやすいとの評価を得ることができたが、反対に文字が中心となった裏面は読みにくいとの意見があった。文字による説明をわかりやすく書いてほしいとの指摘があった。男性同性間の HIV 感染リスクに特化した情報提供に関しては、行政が発行する媒体と異なり、必要な情報が入手できる点で評価された。情報伝達に関して、マンガを用いた点については概ね好評であったが、(出会ってすぐに相手を家に連れてきてアナルセックスをするという) 設定に対してはリアリティを感じる、感じないで評価が二分した(同様の点は、11月のコミック企画広告においても指摘された)。ヌード写真に関しては、きれいであるがインパクトが弱いとの指摘があった。セイファー度チェックに対しては、自身の性行動をとらえかえす契機となったとの意見が寄せられた一方で、利用しにくいとの指摘があり、どのような方式・形式を採用するかについては今後の課題となった。検査情報において検査機関の電話番号、地図、予約の有無が記した点については便利であるとの評価が得られた。地域版の発行に関しては、エイズを自分たちのコミュニティの問題として認識する契機になるとの意見が札幌、松山において出されたが、地域版であることがわかりにくいとの指摘があった。

(3) 情報パンフレットおよびフライヤー／メディア広告の両者に共通する意見

カタカナ、英語表記が啓発およびイベント広報を妨げている、バーへの配布等を考え配色において明るい色を用いる、啓発資材の開発にあたっては初級、中級、上級など性経験等を考慮する、等の指摘があった。

E. 結論

本研究では、介入の評価を行うために、プログラムの改善点を明らかにするための形態評価と介入の効果測定を行うための影響評価の2つのアプローチを採用した。

個人レベルの介入では、STD 情報ラインおよび STD 情報ページに対して、形態評価を行った。STD 情報ラインでは、利用層が関東・近畿地区在住の20~30代前半の男性同性愛者に集中しており、他地域および他の年齢層からのアクセスを増やすための取り組みが必要とされている。また、土曜・日曜での相談のニーズの高さも踏まえ、相談曜日についても検討する必要がある。相談内容では、男性間の性行為およびそれに起因する症状に関する相談ニーズが高いこと、また

これらの症状・疾病に対応できる医療機関の相談ニーズが高いことも明らかになった。医療機関への紹介体制を構築していく必要性が示唆されたといえる。STD情報ページでは、ホームページに対しては高い満足度を示していたが、利用者は概ね関東・近畿・中部地方に住む10～30代の男性同性愛者・両性愛者であることが明らかになった。これ以外の地域および他の年齢層からのアクセスを増やすための取り組みが必要である。

小グループ・レベル (LIFEGUARD) の介入では、形態評価と影響評価を実施した。形態評価では、プログラムにおいて扱われた情報量は適切であり、また内容の質、とりわけリスク回避のテクニック (=スキル) については、参加者にとって有益な内容になっていることが示された。影響評価では、プレテスト、ポストテスト、フォローアップテストの3回にわたってアンケート調査を実施し、介入の効果を検討した。知識においてオーラルセックスおよびそれに関連する身体部位(「口の中」)において課題が残ったものの、体液、身体部位、感染行為において概ね知識の上昇をみた。セーフターセックスおよびコンドームに対するイメージでは、介入による効果がフォローアップテストまで持続した。リスクを回避するスキルの認知およびリスクを避けられるという自己効力感においても、介入による効果がフォローテストまで持続したことが確認された。以上の結果を踏まえ、性行動(コンドームなしのアナルセックスおよび口内射精)においても、目的として設定した全4項目においてリスク行動の減少が確認された。以上から、LIFEGUARDによる参加者への啓発効果が確認されたと考える。

コミュニティ・レベルでは、FGIによってフライヤー/メディア広告および情報パンフレットに対する形態評価を実施した。フライヤー/メディア広告全体に対しては、LIFEGUARDの広報およびHIV啓発の両側面を担ったため結果的に趣旨が不明確との指摘があった。情報パンフレットに対しては、カラー刷りおよびマンガを用いたこと、男性同性間のHIV感染リスクに特化した情報提供に対して、行政が発行する媒体と異なり、必要な情報が入手できる点で高く評価された。また、地域版の発行は、エイズを自分たちのコミュニティの問題として認識する契機になるとの指摘があった。両者に共通する点として、マンガを用いたことは好評であったが、場面設定に対しては地域差や行動様式によってリアリティの感じ方に差異が見られた。また、カタカナ、英語表記が啓発および広報を妨げているとの指摘があった。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

【論文】

Takashi KAZAMA, Kazuya KAWAGUCHI “HIV Risk and the (Im)permeability of the Male Body: Representations and Realities of Gay men in Japan” Roberson, James and Suzuki Nobue ed., *Men and Masculinities in Contemporary Japan, 2003*, Routledge Curzon, 180-197

風間孝 2003 「生—権力と死——エイズの時代における男性同性愛者の表象をめぐる——」
『解放社会学研究 17』日本解放社会学会

風間孝 2003 「介入の場としてのゲイ・ポルノグラフィ」『女性学 vol.10』日本女性学会

【学会発表】

風間孝 2002 「H I V感染リスクの構築と侵入（不）可能性——エイズにおける男性同性愛と外国人女性の表象——」口演発表（第18回日本解放社会学会 口演発表）

風間孝 2002 「ゲイ・ポルノグラフィー試論——男性同性愛のエイズにおける表象を中心に——」大会シンポジウム報告（2002年日本女性学会 シンポジウム発表）

Takashi KAZAMA, Kazuya KAWAGUCHI, Masao KASHIWAZAKI, Tomoo SUGAWARA, Kumiko KANEKO, Ken SUZUKI, Hidekazu KIMURA 2002 “Four Major Areas Identified Through the Risk Assessment Analysis: Towards the Intervention Among Gay Community in Japan” (The 14th International AIDS Conference)

風間孝・大石敏寛・河口和也 2002 「男性同性愛者等におけるリスク・アセスメント調査」（第61回日本公衆衛生学会総会 口演発表）

風間孝・河口和也・菅原智雄・柏崎正雄・宮内典子 2002 「男性同性愛者等におけるリスク・アセスメント調査」（第16回日本エイズ学会総会 口演発表）

河口和也・風間孝・大石敏寛 2002 「ゲイ、バイセクシュアル男性のエイズ予防に向けたリスク構成要因」口演発表（第61回日本公衆衛生学会総会 示説発表）

河口和也・風間孝・菅原智雄・柏崎正雄・宮内典子 2002 「ゲイ、バイセクシュアル男性のエイズ予防に向けたリスク構成要因」（第16回日本エイズ学会総会 口演発表）

Kazuya KAWAGUCHI, Takashi KAZAMA, Masao KASHIWAZAKI, Tomoo SUGAWARA, Kumiko KANEKO, Ken SUZUKI, Hidekazu KIMURA 2002 “Some Findings Through Focus Group Interview in Three Japanese Cities: Risk Assessment for AIDS Prevention Among Gay and Bisexual in Japan” (The 14th International AIDS Conference)

H. 知的財産の出願・登録状況

なし

イベント前・アンケート

No.	
-----	--

LIFEGUARD2002 はゲイの人たちがエイズ予防において、いま必要としている情報やノウハウを楽しく、実際の役に立つように伝えていくことを目的としています。内容の構成やねらいが正確に伝わったか、実際に役に立っているかについて主催者としてフィードバックし、今後たえずプログラムを改善していきたいと思ひます。

そこで、参加者のみなさんにこのイベントについてのアンケートをお願いしています。イベント中においては、**参加前**、**参加後**にそれぞれ記入をお願いしています。さらに**1ヵ月後**にご協力いただける方には¥500 程度のお礼を差し上げます。**回答は無記名ですが、回答者の統一番号の記入が必要となります(右上)**。これは、統計的に処理するためのものであり、個人を特定する趣旨ではありませんので、ご了承いただけるようお願いいたします。

頂いたご回答やご意見は、プライバシーを守ったうえで、大切に活用させていただきますので、ぜひともご協力の程お願い致します。
NPO 法人アカー (OCCUR)

【第1部・開始前に記入をお願いします】

1 今回のイベントは何で知りましたか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

ゲイ雑誌

バディ 薔薇族 G-men サムソン

インターネット

ホームページ ()
 検索エンジン ()
 メールマガジン ()

チラシ・フライヤー

ダイレクトメールで ()
 ショップやお店で ()

その他

友人から聞いた
 その他 ()

2 今回のイベントに参加しようと思ったのは、どうしてですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

エイズについて知りたい
 セックスについて知りたい
 出会いのチャンスがあると思ったから
 エイズについて友だちに知らせたい
 その他 ()

3 HIV感染の可能性がある体液はどれだと思いますか。(いくつでも)

血液 汗 膈分びつ液
 だ液 精液 涙

4 HIV感染の可能性がある体の部分はどれだと思いますか。(いくつでも)

肛門の中 ヘそ 尿道
 □の中 亀頭

5 HIV感染の可能性がある行為はどれだと思いますか。(いくつでも)

舌をからめるキス
 コンドームをつけずに□の中で射精される
 コンドームをつけていないペニスをなめる (射精しない)
 コンドームをつけずにペニスをなめられる (射精しない)
 コンドームをつけずにアナル(肛門)の中で射精される
 コンドームをつけずにアナルにペニスを入れる (射精しない)

★エイズの予防のとりくみに具体的に役立てるため、みなさんの性行為(セックス)についてお聞きします。(ここでいうセックスとは、相互マスターベーション、フェラチオ(オーラルセックス)、アナルセックス、膈(ちつ)性交のすべてを含みます。)

6 これまでにセックスをしたことがありますか
 はい(→7へ) いいえ(→15へ)

7 その相手の性別はつぎのどれですか

すべて男性
 どちらかというとな性が多い
 男女半々
 どちらかというとな性が多い
 すべて女性(→15へ)

★これからは、これまでの男性とのセックスについてお聞きします。

イベント後・アンケート

No,	
-----	--

【イベント全終了後に記入をお願いします】

1 今回のイベントで提供されたエイズの情報は

A	<input type="checkbox"/> 多すぎた <input type="checkbox"/> ちょうどよい <input type="checkbox"/> 少なすぎる
B	<input type="checkbox"/> ほとんど知っていた <input type="checkbox"/> 知っているものと知らないものがあった <input type="checkbox"/> 初めて知った

2 イベントの長さは

- 長かった
- ちょうどよかった
- 短かった

3 このイベントで他の参加者と話げできましたか

- かなりできた
- ある程度できた
- あまりできなかった
- まったくできなかった

4 企画内容の「クローズアップ・ゲイセックス」で、役に立ちそうなテクニックはありましたか

<input type="checkbox"/> あった	<input type="checkbox"/> なかった
↓	
(それはなんですか)	
①	
②	

5 企画内容の「使えるテクニックとハウツー・シェアリング」で、役に立ちそうなテクニックはありましたか

<input type="checkbox"/> あった	<input type="checkbox"/> なかった
↓	
(それはなんですか)	
①	
②	

6 参加者の工夫や経験を聞いて、参考になることはありましたか

- かなりあった
- ある程度あった
- あまりなかった
- まったくなかった

7 今回のイベントでとりあげられたエイズについての話題で、友だちに知らせたいと思ったことはありましたか

- はい
- いいえ
- その他 ()

8 HIV感染の可能性のある体液はどれだと思いますか。(いくつでも)

- 血液
- 汗
- 膣分泌液
- だ液
- 精液
- 涙

9 HIV感染の可能性のある体の部分はどれだと思いますか。(いくつでも)

- 肛門の中
- ヘソ
- 尿道
- 口の中
- 亀頭

10 HIV感染の可能性のある行為はどれだと思いますか。(いくつでも)

- 舌をからめるキス
- コンドームをつけずに口の中で射精される
- コンドームをつけていないペニスをなめる (射精しない)
- コンドームをつけずにペニスをなめられる (射精しない)
- コンドームをつけずにアナル(肛門)の中で射精される
- コンドームをつけずにアナルにペニスを入れる (射精しない)

11 ぶだんのセックスで、今後、どんなことを心がけたいですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

- コンドームをつけてないペニスをなめない
- 直接ペニスをなめても射精は受けない
- まったくペニスをなめない
- コンドームなしでペニスをアナルに入れない
- コンドームなしでペニスをアナルに入れさせない
- コンドームなしでアナルに入れさせるが、アナルで射精させない

12 あなたは、コンドームやセイファーセックスについてどんなイメージを持っていますか。あてはまる★のところに○をつけてください。（セイファーセックスとは、エイズを含む性感染症を予防するための安全なセックスを指します。）

①コンドームを使ったセックスは？

とてもHな 感じがする	★	★	★	★	★	★	まったくHな 感じがしない
1	2	3	4	5	6		

②セイファーセックスは？

とても 気持ちよい	★	★	★	★	★	★	まったく 気持ちよくない
1	2	3	4	5	6		

③セイファーセックスは？

いろいろな やりかたがある	★	★	★	★	★	★	やりかたが 決まっている
1	2	3	4	5	6		

13 コンドームをつけずにフェラチオするばあい、HIV感染をさけるテクニックを知っていますか

- かなり知っている
- ある程度知っている
- あまり知らない
- まったく知らない

14 相手がコンドームを使わないで、アナルセックスをしようとしたら、それを止めるテクニックを知っていますか

- かなり知っている
- ある程度知っている
- あまり知らない
- まったく知らない

15 あなたは、フェラチオのときに、相手が自分の口内に射精するのをさけることができますか

- いつもできると思う
- ときどきできると思う
- あまりできないと思う
- 絶対できないと思う

16 あなたは、アナルセックスのときに、コンドームを使うことができますか

- いつもできると思う
- ときどきできると思う
- あまりできないと思う
- 絶対できないと思う

17 本日のLIFEGUARD2002について、感想などありましたら、ご記入ください。

1ヶ月後・アンケート

No.

1 HIV感染の可能性のある体液はどれだと思いますか。(いくつでも)

- 血液 汗 膣分泌液
だ液 精液 涙

2 HIV感染の可能性のある体の部分はどれだと思いますか。(いくつでも)

- 肛門の中 へそ 尿道
口の中 亀頭

3 HIV感染の可能性のある行為はどれだと思いますか。(いくつでも)

- 舌をからめるキス
コンドームをつけずに口の中で射精される
コンドームをつけていないペニスをなめる
 (射精しない)
コンドームをつけずにペニスをなめられる
 (射精しない)
コンドームをつけずにアナル(肛門)の中で射精される
コンドームをつけずにアナルにペニスを入れる
 (射精しない)

★エイズの予防のとりくみに具体的に役立てるため、みなさんの性行為(セックス)についてお聞きします。(ここでいうセックスとは、相互マスターベーション、フェラチオ(オーラルセックス)、アナルセックス、膣(ちつ)性交のすべてを含みます。)

4 過去1ヶ月間にセックスをしましたか

- はい(→6へ) いいえ(→8へ)

5 その相手の性別はつぎのどれですか

- すべて男性
どちらかというとな男性が多い
男女半々
どちらかというとな女性が多い
すべて女性(→7へ)

★ これからは、過去1ヶ月間の男性とのセックスについてお聞きします。

6-1 過去1ヶ月間に、つぎのような行為のときにコンドームを使用しましたか。

- ① アナルにペニスを入れるとき
- よく使った
ときどき使った
あまり使わなかった
まったく使わなかった
その行為をしなかった

②アナルにペニスを入れられるとき

- いつも使った
ときどき使った
あまり使わなかった
まったく使わなかった
その行為をしなかった

6-2 過去1ヶ月間のコンドームなしのフェラチオについてお聞きします。

- ③口の中に射精することはどのくらいありましたか
- よくあった
ときどきあった
あまりなかった
まったくなかった
その行為をしなかった

④口の中に射精されることはどのくらいありましたか

- よくあった
ときどきあった
あまりなかった
まったくなかった
その行為をしなかった

7 あなたはふだんのセックスで、どんなことを心がけていますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

- コンドームをつけてないペニスをなめない
直接ペニスをなめても射精は受けない
まったくペニスをなめない
コンドームなしでペニスをアナルに入れない
コンドームなしでペニスをアナルに入れさせない
コンドームなしでアナルに入れさせるが、アナルで射精させない

8 あなたは、コンドームやセイファーセックスについてどんなイメージを持っていますか。あてはまる★のところに○をつけてください。(セイファーセックスとは、エイズを含む性感染症を予防するための安全なセックスを指します。)

①コンドームを使ったセックスは？

とてもHな 感じがする						まったく Hな感じが しない
★	★	★	★
1		2		3		4
						5
						6

②セイファーセックスは？

とても 気持ちよい						まったく 気持ちよく ない
★	★	★	★
1		2		3		4
						5
						6

③セイファーセックスは？

いろいろな やりかたがある						やりかたが 決まって いる
★	★	★	★
1		2		3		4
						5
						6

9 コンドームをつけずにフェラチオをするばあい、HIV感染をさけるテクニックを知っていますか

- かなり知っている
- ある程度知っている
- あまり知らない
- まったく知らない

10 相手がコンドームを使わないで、アナルセックスをしようとしたら、それを止めるテクニックを知っていますか

- かなり知っている
- ある程度知っている
- あまり知らない
- まったく知らない

11 あなたは、フェラチオのときに、相手が自分の口内に射精するのをさけることができますか

- いつもできると思う
- ときどきできると思う
- あまりできないと思う
- 絶対できないと思う

12 あなたは、アナルセックスのときに、コンドームを使うことができますか

- いつもできると思う
- ときどきできると思う
- あまりできないと思う
- 絶対できないと思う

—ご協力ありがとうございました—

研究成果の刊行に関する一覧表

研究成果の刊行に関する一覧表

【刊行物】

Takashi KAZAMA, Kazuya KAWAGUCHI 2003 “HIV Risk and the (Im)permeability of the Male Body: Representations and Realities of Gay men in Japan” Roberson, James and Suzuki Nobue ed., *Men and Masculinities in Contemporary Japan*, Routledge Curzon, 180-197

風間孝 2003 「介入の場としてのゲイ・ポルノグラフィ」『女性学』Vol.10. 日本女性学会.

風間孝 2003 「生—権力と死——エイズの時代における男性同性愛者の表象をめぐって」『解放社会学研究 17』. 日本解放社会学会. 33-58.

【地方自治体施策への研究成果の反映】

<共催、共同発行、等>

札幌市保健所保健管理課

男性同性愛者向け啓発リーフレット制作「Brush Up!Safer Sex (札幌版)」2002

川崎市健康福祉局健康部疾病対策課

男性同性愛者向け小グループ・レベル・ワークショップ「LIFEGUARD2002-2003」
川崎市健康検診センター, 2003. 2. 15

横浜市衛生局難病対策課

男性同性愛者向け啓発リーフレット制作「Brush Up!Safer Sex (横浜版)」2002

松山市保健所地域保健課 感染症対策係

男性同性愛者向け啓発リーフレット制作「Brush Up!Safer Sex (松山版)」2002
平成 14 年度エイズ対策セミナー企画, 2003. 2. 6-7

※その他、協力等の研究成果の反映については割愛した。

